

がんばろう 南三陸町 復興第8号

南三陸マイタウン情報

発行所
マイタウン企画
本吉郡南三陸町志津川字沼田150-84
TEL (47) 3069
後援:
志津川広報センター

「活動支援の輪」



南方仮設から踊りを披露

5月27日(日)開催されたベイサイドアリーナでの「福興市」に、南三陸町から登米市「南方仮設」で現在暮らしている、8名の方々がイベントに出演し、踊りの活動の成果を発表した。

今回の福興市への出演には多くの皆さんの協力があつた。南方において「伊藤あい子先生」の踊りの指導支援があり、イベントプログラム出演の演歌歌手「あやか」さんの、歌のバックの踊り出演依頼など、活動支援の輪が南三陸町での踊りの、舞の披露となった。



宮川会長の挨拶

会場には出演した皆さんの、家族・親戚・友達がしばらくぶりで見える姿を楽しみ、盛大な声援と拍手が送られていた。

南方仮設住宅第一期自治会の宮川安正会長は挨拶の中で、「仮設にとじこもりがちな皆さんに外にでて何か活動をしてもらいたい」との願いがあり、それが伊藤先生の協力と、「あやか」さんの音楽事務所に伝わり、これが現実のものとなった。

長びく仮設生活の中で一人暮らしの高齢者も多く、南三陸町そして登米市の皆さんとの交流が、孤独感や不安からの脱却につながる。一日も早く南三陸町の「郷土に帰りたい」との気持ちを込め、一生懸命に笑顔で踊る皆さんの顔が今でも印象に残る。



♪いーま
あなたに心からありがとう♪

「うーみ」の音が南三陸町の青空に

27日の福興市では「うーみコンサート」があつた。うーみさんは被災後の5月、南三陸町の

方々の一次避難場所となった「登米市津山町若者総合体育館」に駆け付け、被害の実情を聞き、そして現地を見て「皆さんの町の事なんだよ」「残さなくてはいけない」と南三陸町民の方に訴え、この南三陸町の悲惨な状況を、全国でのコンサートで、支援の気持ちを風化させないようにと「南三陸町の大被害と支援」を各地に呼びかけている。

CDアルバムには「あなたへ」があり、この歌は遠藤未希さんの為に作った曲で「秋晴れの空をあなたにあげましょう。人のため生きてあなたへ」と歌った曲。また、石巻市立万石浦中学校の皆さんの作文を曲にした「現在～いま～」があり、CD販売の一部を学用品にあてるという活動もしている。

この日は南三陸町の「バーバー宮川」さんが飛び入りで「君の一期一会をくれないか♪」をうーみさんと二人で熱唱し、会場からは割れんばかりの拍手が贈られた。子供たちとの手をつないでの歌は会場の笑いをさそっていた。



戸中生の輝く瞳(入学式にて)

平成24年4月10日午後1時30分から、志津川中と併設になり、共通の多目的ホールを会場に、新入生19名の入学式が開催された。

式辞で小野寺校長は、「児童から生徒になり、英語や数学の教科もあり、部活や生徒会で“戸倉っ子”の伝統を守って下さい」と話し、中学校生活では「感謝する心」「正しい判断力」「正直な心」を持ち養って欲しいと語りかけた。

祝辞で佐藤町長は「全国の多くの方への支援に応えられるよう元気で過ごしてください」と伝え、後藤議長は「人生に前向きに、温かい心を持ち、友達を大切に」とと学校生活の在り方を語ってくれた。

小山生徒会長は、「55名の一人一人が戸中生として思い出を作っていきます」と新入生に語りかけ、佐藤麻由さんが「戸倉中に入学したことを誇りに思います」と答えた。

父兄の謝辞では、戸倉中学校の再建を誓う挨拶が心に響いた。



志中多目的ホールにて

平成24年度は、情報ビジネス科第17回生25名、普通科第67回生91名、合計116名の新入生を迎え学校生活が始まった。

式辞で校長先生は「真・和・敬」の教訓を取り上げ「誠実で愛情を持った人間になってほしい。人間の基本的な態度」を学校生活で養って下さいと話した。町長は「南三陸町は君たち若人の創建にかかっている」と話し、チリ大統領が皆さんを激励に来たとも伝えた。

校舎の玄関には石のモアイの像がある。今回の被災で松原公園にあったモアイ像は大津波により破壊され、上半身だけが残り志高にそれを移転したと聞いた。志高生にもモアイ像のように逞しく生きて、南三陸町の復興の力になってほしい。



志高入学式に先輩からエール



運動部文化部有志が校歌披露

今年も志高の入学式が4月10日に開催された。平成23年3月11日の大震災の襲来により、4月の入学式も登米市の二つの学校に分断されていた学校生活があり、23年度の中頃に不便な学校生活から母校に帰りスタートした。そんな厳しい環境の中で運動部・文化部とも全国から多くの支援により、辛く苦しい中で志津川高校の伝統を守ることができた。

3月定例議会 10議員が質問

◆大瀧りう子氏

①震災による所得減で、医療費負担が大きくなっている。医療費の一部負担免除の継続を。18歳までの医療費を無料化する考えは②仮設住宅集会所の未設置の対策は。高齢者宅に緊急通知ブザーを設置すべき。

町長 ①医療費の一部負担免除は9月まで延長されたが、10月以降も継続するよう国に要望していく。15歳以下については10月1日から無料化を実施する。②今月中に役場の新仮庁舎が完成すると、仮庁舎のプレハブが不要になるので有効活用したい。簡易な緊急通報ブザーの導入を考えているが、仮設団地の住民の理解を得ながら進めたい。

◆菅原辰雄氏

①津波で公立志津川病院、保健センター、特別養護老人ホームなどの医療福祉関連施設を失った。施設を一体化して整備する考えは②被災時に活用された町道、農道の整備を図れ。

町長 ①一体的サービスは理想的な手法だ。復興庁、県と協議していく。特養ホームは事業者の意向を確認する必要があるが、土地の貸与などの支援はする。②震災復興事業によって町の形態が大きく変わるため、防災集団移転などを考慮しながら道路整備を進めなければならない。高台移転のための道路を急ぎたい。

建設課長 ②避難道として、復興交付金での整備を検討している。

◆鈴木春光氏

①震災で一次産業、観光は大打撃を受けた。支援、振興策を示せ②津波被害を受けた戸倉小学校、松原住宅の再建は。

町長 ①農地は42か所の災害査定が終わり、復旧に約200億円の予算が付く。6次産業化に向けて農協と連携して取り組みたい。区画整理を進める必要もある。震災前は100万人を超える観光客が訪れており、それに近づくよう頑張りたい。2月末までに約2000人が被害視察に来ている。今後も多くの人々が来町するよう情報発信していく。②両施設は地盤沈下しておりかさ上げが必要。新しく造成する高台への移設を考えている。

◆千葉伸孝氏

①町長が社長を務めていた印刷会社は、会社全体の売上げの2割が町の発注。売上げの半分以下ではあるが、兼業禁止の法に抵触しないか②行政経費を削減し、被災者支援に回すべきでは。

町長 ①全体の業務量の半分には達していないので、兼業禁止の規定に触れることはない。町の印刷物の受注に関しては常に「半分」ということを意識してきた。②最少経費で最大の効果を上げられるように努力しているが、復興にかかる経費(2900億円)は国に手当てしてもらうのが基本である。

総務課長 ①最高裁では、25%までは兼業に当たらないとしている。

◆小山幸七氏

震災後、水産業の再開が進んでいる。ワカメのブランド化を図れ。皇室に献上する考えはないか。

町長 漁業者、漁協などの協力によって、震災前に比べると歌津地区で6割、志津川地区で同等のレベルまで回復している。ワカメはすでにブランド化されており、養殖いかだの密植を避け、品質保持を図っていくことが大切だ。今回の震災で南三陸の名前が全世界に知れ渡ったこともあり、引き合いもある。物産販売してくれるケースもあり、今後も高品質を維持していきたい。皇室献上品は新規を受け付けていないが、それに向けた努力は惜しまない。皇室にお届けできればうれしい。

※一般質問は順不同です。前号の続きを掲載しています。